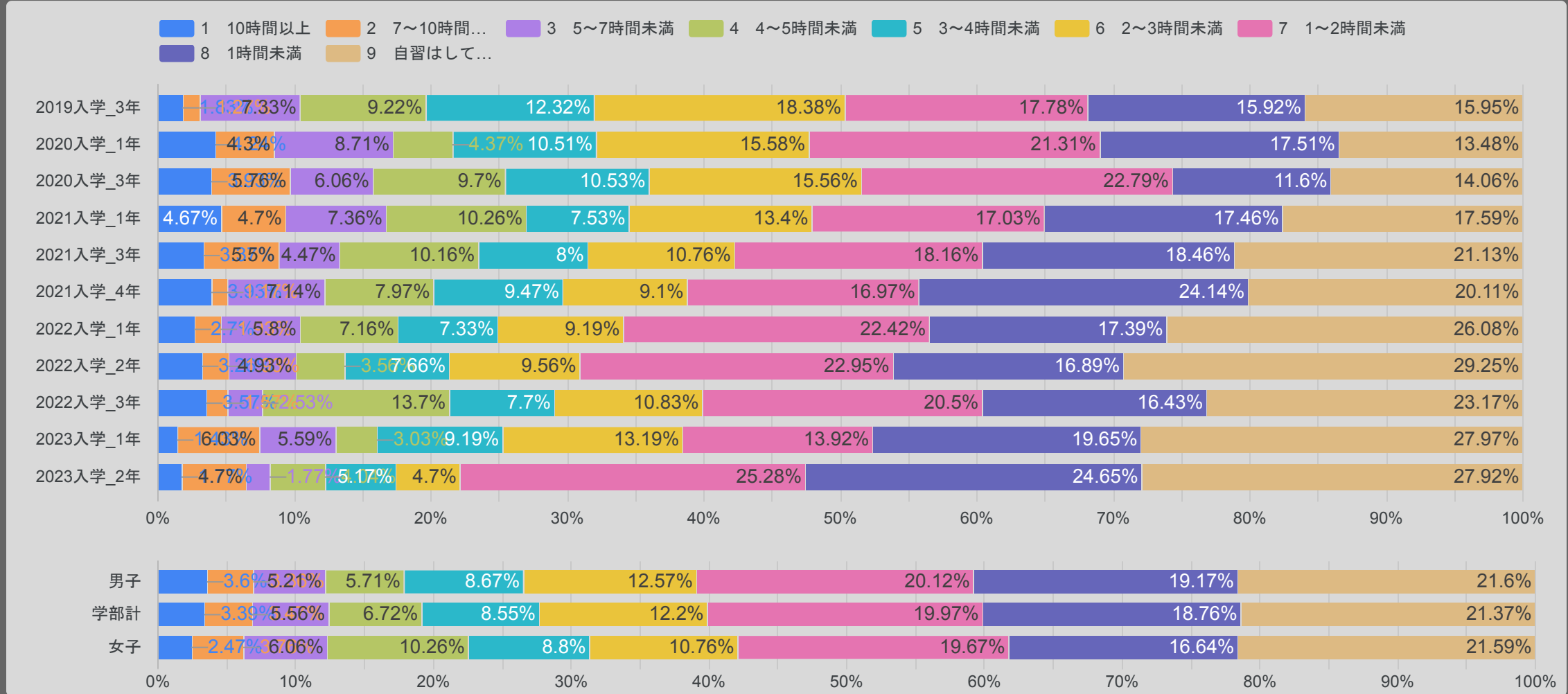


性別

入学年度

学年



■入学年度別の傾向

- ・自習時間1時間未満の学生の増加：2019年度入学の学生と比較して、2023年度入学の学生は自習時間が1時間未満の割合が大幅に増加しています。これは、近年の学生の自習時間が減少傾向にあることを示唆しています。
- ・自習をしない学生の増加：自習をしない学生の割合も2019年度入学の学生と比較して2023年度入学の学生で増加しており、特に2022年度と2023年度入学の学生で顕著です。

■学年別の傾向

- ・学年が上がるにつれて自習をしない学生が増加：1年生では自習をしない学生の割合が21.29%であるのに対し、2年生では28.58%に増加しています。
- ・低学年での自習時間の集中：1年生と3年生は、比較的長時間の自習（10時間以上、7～10時間未満、5～7時間未満）を行う学生の割合が高く、特に1年生で顕著です。

■性別の傾向

- ・女性の自習傾向：女性は男性と比較して、「4～5時間未満」と「5～7時間未満」の自習時間帯の割合がやや高くなっています。
- ・自習をしない割合の均一性：自習をしない学生の割合は、男女でほぼ同じ傾向を示しています。
- ・女性の学年進行による自習時間の増加：男性の場合、学年が上がっても1年次の自習時間の割合とほぼ同じですが、女性は学年が上がるにつれて9自習はしていないの割合が下がり、自習時間を確保していると回答する割合が増加します。

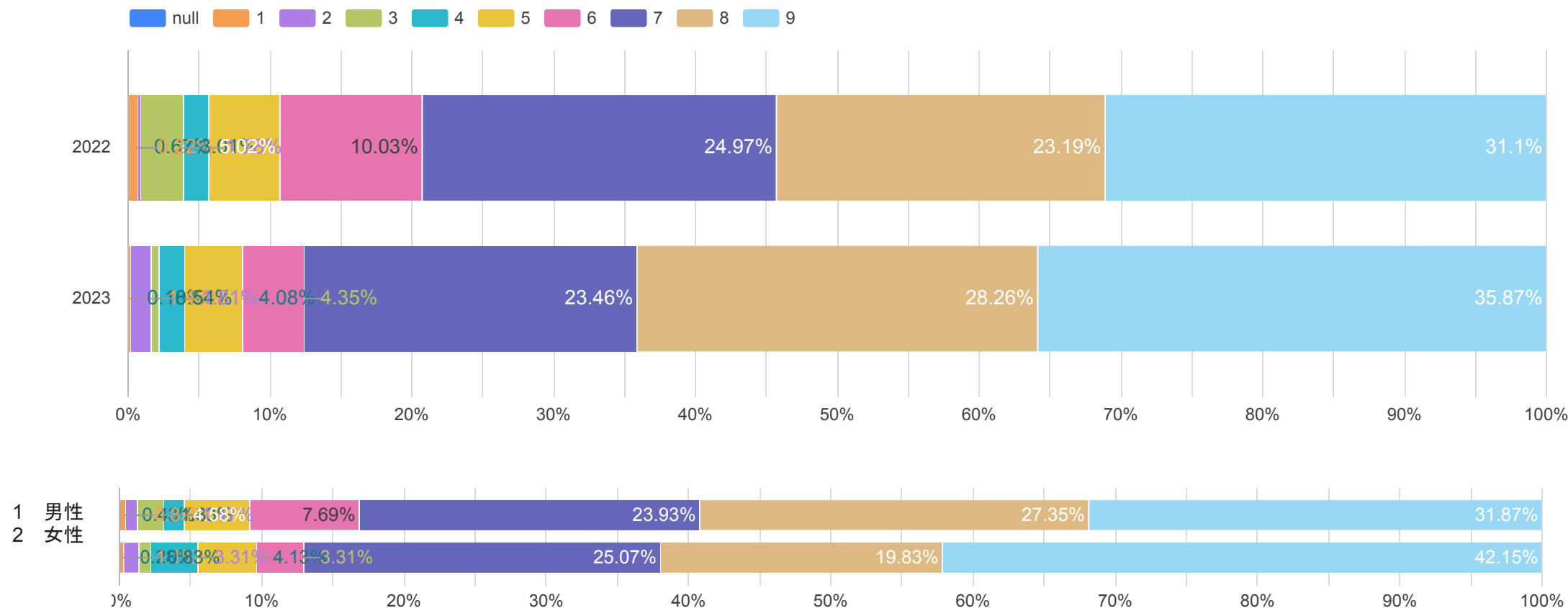
学修行動の把握【2年生】 経年比較2022-2024

在学生Q12 自習時間（週あたり）（選択率%）

性別

入学年度

- 1) 10時間以上 2) 7～10時間未満 3) 5～7時間未満 4) 4～5時間未満 5) 3～4時間未満 6) 2～3時間未満 7) 1～2時間未満 8) 1時間未満
9) 自習はしていない



■全体的な傾向

- ・全ての入学年度において、「9）自習はしていない」が最も高い割合を占めています。上位3つの回答は年度によって多少の変動はあるものの、「9」、「8」、「7」が主要な回答として一貫して高い割合を占めています。
- ・在学1年次～2年次にかけての自習時間について、「1）10時間以上」―「4）4～5時間未満」の層は、2023年度入学者は全体の5.69%、2024年度入学者は全体の3.99%と減少する傾向があります。

■区分別の自習時間

- ・全体として、男女ともに「9）自習はしていない」が最も選ばれる傾向にあります。
- ・年度に関わらず、女性の方が、「7）1～2時間未満」「8）1時間未満」「9）自習はしていない」を選ぶ割合が男性よりも高い傾向があります。

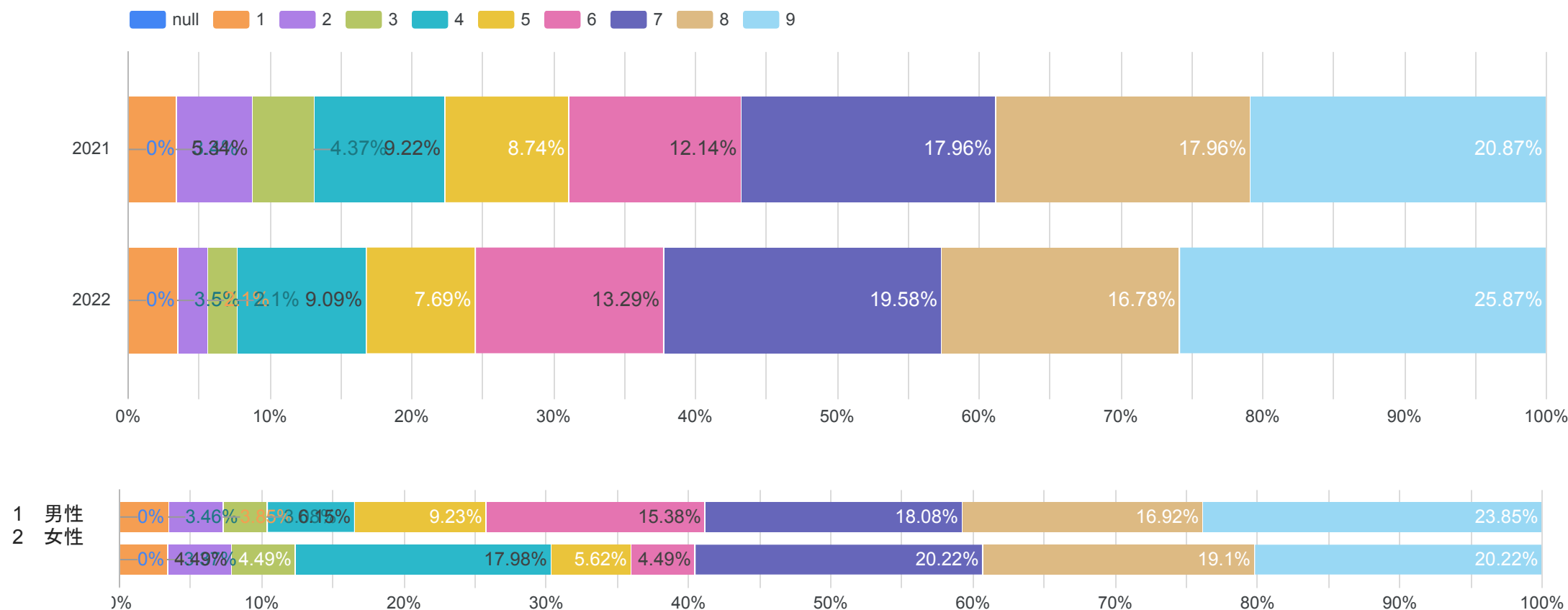
学修行動の把握【3年生】 経年比較2022-2024

在学生Q12 自習時間（週あたり）（選択率%）

性別

入学年度

- 1) 10時間以上 2) 7～10時間未満 3) 5～7時間未満 4) 4～5時間未満 5) 3～4時間未満 6) 2～3時間未満 7) 1～2時間未満 8) 1時間未満
9) 自習はしていない



■全体的な傾向

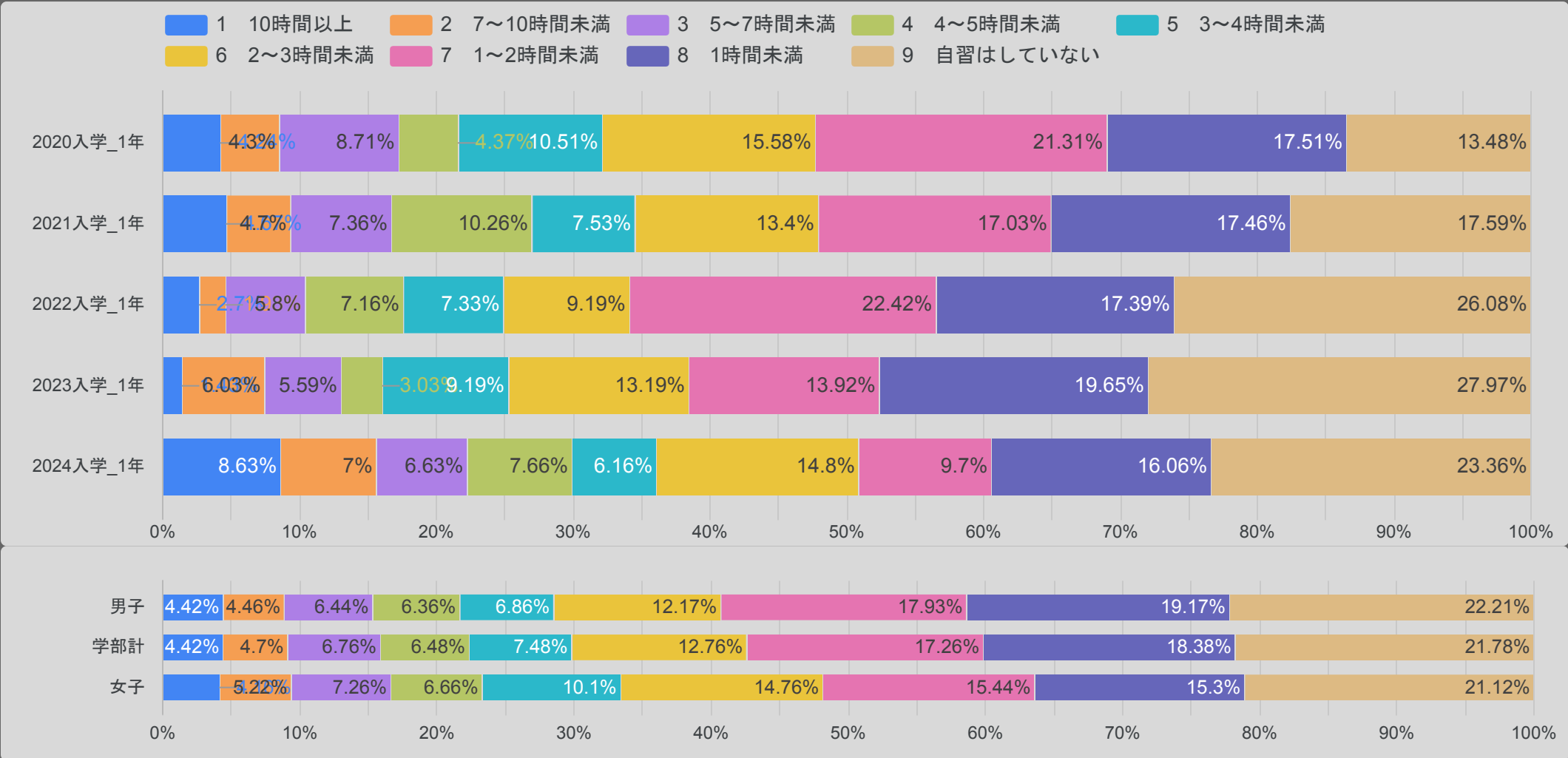
- ・全ての入学年度において、「9）自習はしていない」が最も高い割合を占めています。
- ・在学1年次～3年次にかけての自習時間について、「1）10時間以上」―「4）4～5時間未満」の層は、2021年度入学者は全体の22.33%、2022年度入学者は全体の16.78%と減少する傾向があります。
- ・「1）10時間以上」―「4）4～5時間未満」と回答した学習習慣のある学生層の割合は、2年生の経年比較より高い割合です。

■区分別の自習時間

- ・全体として、男女ともに「9）自習はしていない」が最も選ばれる傾向にあります。
- ・年度に関わらず、女性の方が、「7）1～2時間未満」「8）1時間未満」「9）自習はしていない」を選ぶ割合が男性よりも高い傾向があります。
- ・1年生、2年生に比べて、「4）4～5時間未満」と回答した女性の割合が高く、学習習慣がないと回答した女性の割合が減少しています。

性別

入学年度



■全体的な傾向

- ・全体の回答で最も割合が高かったのは「自習はしていない」でした。これは、回答者の間で高校時代の自習時間が非常に少なかった、あるいは全くなかったと認識している学生が多いことを示しています。

■入学年ごとの自習時間推移

- ・自習時間が少ない層（1時間未満または自習なし）：2020年入学の学生では平均 29.85% でしたが、2023年入学の学生では平均 47.67% となり、自習時間が少ない層の割合が増加傾向にあることがわかります。しかし、2024年入学の学生では 39.43% となり、わずかに減少に転じています。
- ・自習時間が多い層（7時間以上）：2020年から2023年にかけては、回答率に大きな変動は見られませんでした。しかし、2024年入学の学生では 15.63% と、他の年度と比較して大幅に増加しています。

■区分別の自習時間

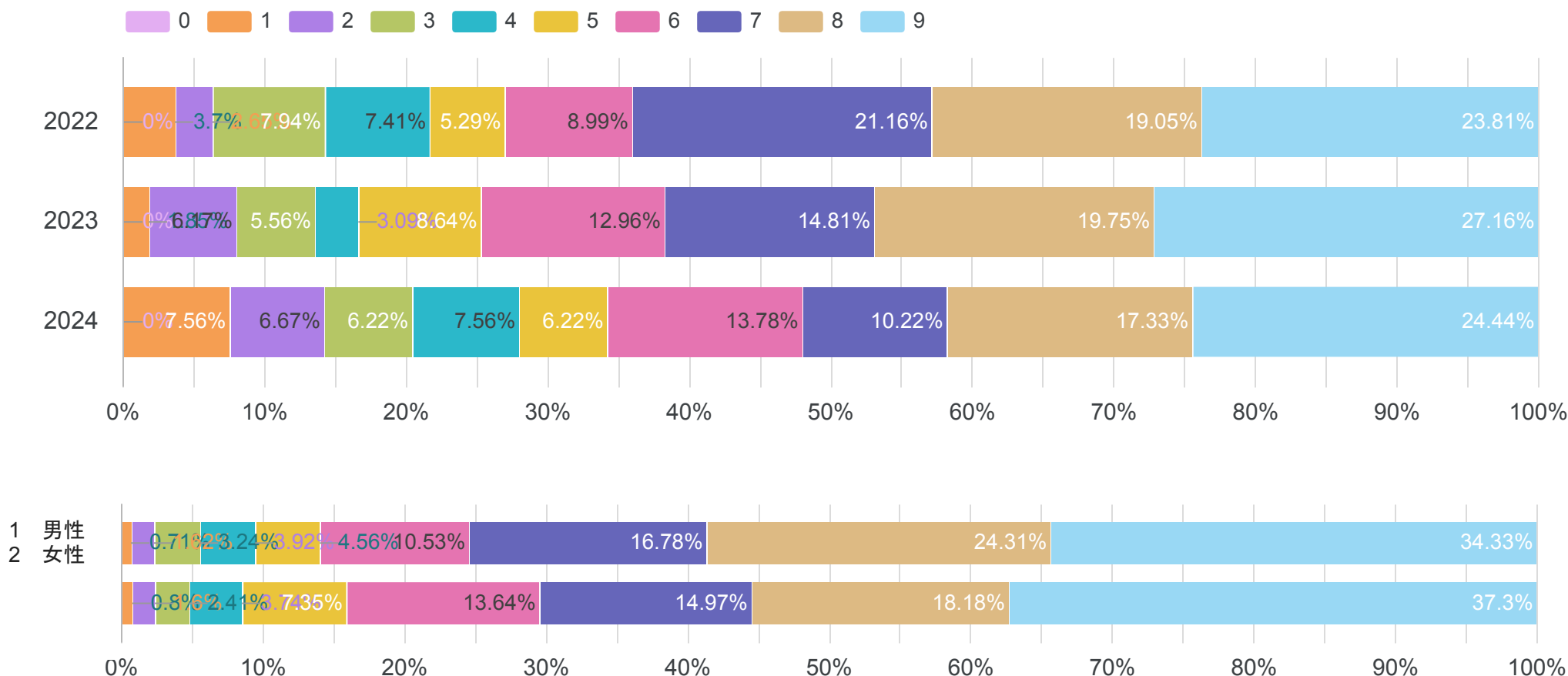
- ・男子は、女子や学部計と比較して「10時間以上」の自習時間が多かった一方、「自習はしていない」と回答した割合も女子よりも高い傾向にあります。
- ・女子は、男子と比較して「自習はしていない」と回答した割合が低い傾向にあります。

学修行動の把握【1年生】 経年比較2022-2024 新入生Q6 自習時間（高校時代の週あたり）（選択率%）

性別

入学年度

1) 10時間以上 2) 7～10時間未満 3) 5～7時間未満 4) 4～5時間未満 5) 3～4時間未満 6) 2～3時間未満 7) 1～2時間未満 8) 1時間未満
9) 自習はしていない



■全体的な傾向

- ・全ての入学年度において、「9）自習はしていない」が最も高い割合を占めています。上位3つの回答は年度によって多少の変動はあるものの、「9」、「8」、「7」が主要な回答として一貫して高い割合を占めています。
- ・「1）10時間以上」の割合は、2023年度の1.85%から2024年度の7.56%まで変動が見られ、年度によって回答の傾向に変化があることがわかります。
- ・「7）1～2時間未満」の割合は、2024年度の10.22%から2022年度の21.16%まで変動しており、年度ごとの回答傾向に大きな差があることが示されています。

■区分別の自習時間

- ・全体として、男女ともに「9）自習はしていない」が最も選ばれる傾向にありますが、それ以外の回答については性別によって多少の傾向の違いが見られます。
- ・男性は「8）1時間未満」や「7）1～2時間未満」を選ぶ割合が高く、女性は「6）2～3時間未満」や「5）3～4時間未満」を選ぶ割合が男性よりも高い傾向があります。